

# 令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書

制作団体名	有限会社オペラシアターこんにゃく座
公演団体名	オペラシアターこんにゃく座

内容
<p>オペラのなかの1曲（「テトのパンはあ」）の楽譜と音源を事前に渡し、音楽の授業やホームルームなどの時間に練習、また校内放送などをしていただき、曲に親しんでいただきます。当日は、本公演と一緒に歌をうたってもらう場面の指導を中心に行ないます。</p> <p>1／劇団紹介をしつつ、劇団名の由来となっている「こんにゃく体操」を行ないます。</p> <p>2／「オペラ」とはどのようなものか、“演劇”と“オペラやミュージカル”の違いは何か、実演をまじえて説明します。</p> <p>3／いよいよ参加をしてもらう場面の練習をします。まず初めに、上演する演目『口はロボットの口』のものがたりの流れを説明し、その中で主人公のテトが歌う「たったひとつとくいなこと」の歌に合わせて、手拍子を打ちリズムを覚える練習をします。</p> <p>4／次に、本公演当日と一緒に歌ってもらう歌「テトのパンはあ」の練習を行ないます。事前に音源を渡し耳になじんでおいてもらった歌を暗譜で歌えるように練習していきます。</p> <p>5／このワークショップを経て初めて知ったこと、まだ疑問として残っていることなどを質問する時間を設けます。</p>

タイムスケジュール（標準）
上記 1／約15分 → 2／約15分 (休憩10分) 3／約40分 → 4／約10分 計90分

派遣者数
指導者 3名
スタッフ 0名
合計 3名

学校における事前指導
<p>1／音楽の授業などで「テトのパンはあ」の練習をしてもらいます。</p> <p>2／給食の時間や校内放送の時間などを使い音源を流してもらい、子供たちの耳に歌がなじむ機会を作ってもらいます。</p> <p>3／授業などでロボットや人工知能に対する知識や理解を深めてもらいます。人間との関係、生活の中での役割などを考える時間にしていただきたいです。</p>



## 演目解説

ウェストランドのパン工場で働くパン製造ロボット‘テト’はパン作りが得意で大好き。ところがある日、作れるパンの数が減ってきてしまいました。テトは体を直してもらうため、自分を作ったドリトル博士の住むイーストランドを目指して旅立ちます。

七日七晩歩き、イーストランドにたどり着いたテトは、そこで‘ココ’という女の子と出会います。ロボットを目の敵にする魔女ノーマが支配するイーストランドで、テトはパンを作ることでココの窮地を救います。

テトのパンは人々を幸せにしていますが、このパンのおいしさの虜になったノーマの娘‘ジーン’の策略によって、テトとココはふたたび窮地に立たされます・・・。

オペラ『ロはロボットのロ』は1999年初演。萩京子作曲によるオペラシアターこんにやく座の代表演目の一つです。初演以来、小学校公演や全国各地にある、子ども劇場、おやこ劇場での公演を中心に上演を重ねてきました。2001年に国際交流基金主催によるインドネシア・タイ・インド3カ国ツアー。また2005年に韓国公演を実施。

物語は、歌い手8人が計30以上の役を演じながら、多層な場面構成により展開していきます。魅力的な登場人物たちによって、笑って、泣いて、どきどきしながら、自分にとって一番大切なものを探す、旅のお話でもあります。困難に出会っても、負けずにまっすぐと前を向く主人公テトの視線に、できたてのパンを食べたときのように心が温かなもので満たされてゆくオペラです。

平成12年東京都優秀児童演劇選定において、東京都教育委員会優秀賞、(社)日本演劇協会賞、(財)都民演劇賞の各賞を受賞。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

劇中でも歌う曲目「テトのパンはあ」を、カーテンコールで出演者と一緒に歌います。ワークショップでは歌のことばにあわせて振付(動き)を練習し、ただ座って(立って)歌うだけでなく、身体を使った表現をともないながら歌います。歌詞カードを用意し、児童生徒がよりのびのびと歌えるように工夫します。

## 児童生徒とのふれあい

- 1 / 学校側の要望に応じ、設営や片付け時の見学が可能です。
- 2 / 給食の時間を出演者・スタッフと一緒に過ごすことで、舞台を観るだけでなく出演者とのふれあいの時間を持つことが可能です。(スケジュールなどで不都合な場合がありますので相談下さい。)